

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久平地域まるごとキャンパス事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 (佐久市中込 3076 番地)
事業区分	(1) 地域の協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1, 870, 154円 (うち支援金: 1, 496, 000円)

事業内容

佐久地域に在住し、又は通学する高校生・大学生等が、市民活動団体・NPO 等が提供する活動プログラムに参画し、地域課題を学び、地域の人たちと一緒に考え、自ら行動することで、地域を知り、地元への愛着心を醸成し、将来の佐久地域への定着や就業へつなげる。

- ・活動プログラムの提案募集：7月上旬
11団体12プログラムの提案
- ・参加学生の募集：7月下旬
- ・活動プログラムの実施：8月から2月まで
10プログラム実施 延べ78名が参加
- ・フォーラム (活動報告会) の開催：2月
学生・市民活動団体・一般ほか 90名が参加

事業効果

- ①学校では学べない地域のことを知り、地域の魅力に気づき、多くの学生が今までより佐久地域を好きになり、将来住み続けたいと思うようになった。
- ②地域のひとと一緒に考え、行動することで、多くの学生が今後もまちづくりにつながる地域活動に参加したいと思うようになり、まちを良くしたいという主体性を育てることにつながった。
- ③普段、なかなか接点のない学生と地域や市民活動団体等が協働することで、学生ならではの発想が活かされ、地域や団体の活動が活性化した。

今後の取り組み

- ・今年度の取組で、市内の高校や、佐久大学とは、事業内容の説明や学校側のニーズについてヒアリングするために訪問を重ね、連携を図ることができた。今後は、引き続き学校との協力関係を強化し、更に多くの高校からの学生の参加を促し、事業を盛り上げていく。
- ・市内の企業には、学生の受入れに前向きなところもあるため、今後は、企業からの参加を促すことで、U I J ターン就業促進に直接つながる事業としていく。



【フォーラム動画配信中】

【目標・ねらい】

- ① 高校生・大学生の地元への愛着心醸成、Uターン率向上
- ② 将来の担い手育成
- ③ 地域・団体の活性化

※自己評価 【A】

【理由】

・活動を通して、より佐久地域が好きになった学生が 63.3%、佐久地域に住み続けたい、戻ってきたいと思うようになった学生が 58.3%と多くの学生に愛着心の醸成やUターンのきっかけにつながる心情の変化がみられた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	共創コミュニティ事業「望月つなぐラボ」
事業主体 (連絡先)	佐久市 (佐久市役所経済部観光課 ☎0267-62-3285)
事業区分	(1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	571,939 円 (うち支援金 : 457,000 円)

事業内容

都市部の参加者と地域住民が、それぞれの視点で、経験やスキルを出し合い地域課題にアプローチする共創コミュニティ事業を行った。

本年度は支援金1年目となることから、昨年度実施した「第3期信州つなぐラボ」(長野県実施、佐久市参画)参加者を中核人材として位置づけ、主に3チームに分かれて、地域とのコミュニティの基礎づくりを実施した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、現地訪問が満足にできなかったなか、オンラインツールを活用し、定期的に地域住民とのコミュニケーションを行った。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた11月には2チームが現地フィールドワークを実施した。

事業効果

- ①都市部居住者と地元連携団体が定期的にオンラインミーティングを実施することで、現地訪問をする以外にも都市と農村の交流を進めることができた。
- ②本事業の中核人材となる都市部に居住する参加者が地域への定期的な訪問することで、佐久市望月地区における関係人口が増加し、佐久市への移住のきっかけになったケースもあった。
- ③望月地区で課題となっている鹿害の問題について都市部の方々がその現状を学び、課題解決のためのアイデアを出し、支援金2年目以降で実際に取組む予定。

今後の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、現地での訪問数が限られてしまい、地元人材の関わりがオンライン対応のできる関係者に限定的になってしまったが、支援金2年目の活動を見据えて、都市部の参加者の方々が主体的に地域の方々と連携を深められるオンラインイベントの実施が進められ、徐々に地域内においても協力者が増えてきている。

支援金2年目は、1年目の地域とのコミュニケーションをもとに具体的なプロジェクトを進め、都市部参加者の方々が地域課題に対して、より継続的且つ主体的に取組める環境を支援していく。



【振り返り会の様子】

【目標・ねらい】

- ①新たな都市と農村の交流モデルの構築
- ②関係人口の増加
- ③地域課題の解決

※自己評価【B】

【理由】新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、現地訪問は限定的になってしまったが、オンラインツールを活用して、新たな都市と農村の交流モデルを構築したほか、当該地区の関係人口増加に寄与することができた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	健康長寿足育サポート事業
事業主体 (連絡先)	佐久市役所市民健康部健康づくり推進課 佐久市中込 3056
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	560,211円 (うち支援金: 448,000円)

事業内容

市では、世界最高健康都市の構築を目指した新しい保健活動として、足に着目した健康づくり「足育」を推進し、幅広い年代で生涯健康であり続けるための施策を実施。

- ・10月
佐久市保健補導員(699名)ブロック研修会で歩行計測(足育)の普及啓発チラシを配布
- ・10月28日
明治安田生命保険相互会社長野営業所佐久支店従業員19名へ歩行計測を実施
- ・7月～11月(延べ10校)
市内小中学校で歩行計測、足裏計測、講演を実施

事業効果

- ①地域の健康の担い手である、佐久市保健補導員のブロック研修会でのチラシ配布、健康増進に係る事業を担う明治安田生命保険相互会社従業員への歩行計測、また、市内小中学校での歩行計測や足裏計測、講演の実施により、これまで「足育」を知らなかった世代の方々へも広く普及啓発を行えた。
- ②中学校での講演を通じ、足のトラブルの怖さや足の大切さを初めて認識し、意識が変わった生徒が多く見られた。また、計測後に改善のための体操などのレクチャーを行うことで、今後の健康づくりに繋がった。

今後の取り組み

今年度の事業を通じて、足育に対する興味や意識が変わった児童、生徒が多く見られた。度事業を行った学校や企業からは、他では学べない内容で健康に対する意識が変わり大変勉強になったため、今後も事業を継続し行ってほしいとのご意見を多くいただいている。

更に充実した足育を推進するため、今後は現在行っている足や靴、歩行についての知識や、姿勢等の改善のための体操を実施するほかに、骨や筋肉を形成するのに必要な食事に関する栄養面での指導も行い、足育と食育を推進することで世界最高健康都市の構築に繋げていきたい。



【市内小学校での歩行計測】

【目標・ねらい】

- ①「足育」の普及啓発
- ②「足育」を通じ幅広い年代の市民が生涯健康であり続けること

※自己評価【 B 】

【理由】

これまで「足育」を知らなかった人たちへも推進できたことにより、幅広い世代へ足の健康に対する意識の変化や、予防のための知識を意識付かせることができた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	武論尊氏関連事業 <ぐるっと佐久スタンプラリー>
事業主体 (連絡先)	ぐるっと佐久スタンプラリー実行委員会 (佐久市教育委員会 文化振興課) (佐久市中込3056 電話: 0267-62-5535 担当: 原田幸男)
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,938,221 円 (うち支援金: 3,919,000 円)

事業内容

時期: 令和3年9月13日(月)～12月12日(日)
【変更前】 令和3年8月21日(土)～11月23日(火祝)
会場: 佐久市全域の文化施設及び参加事業所
事業内容(方法): 文化施設及び市内事業所を巡るスタンプラリーを実施し、条件を満たした方に記念品を贈呈
完走者: 317人
参加者: 延べ約3,000人(シールのはけ具合より)
モデル的で発展性のある事業である理由:

- ・文化施設全体で取り組むことにより参加者が様々な文化施設に足を運び施設の魅力を知るきっかけにつながった
- ・経済波及効果も目的に、文化施設と市内事業所とが官民連携して取り組んだ 等

事業効果

- ①文化施設来場者の増加**
 文化施設来場者の増加率(令和元年度比)
 11施設のうち、3施設で増加となった
- ②事業の満足度**
 満足度割合 93.4%(目標80%以上)
- ③文化との関わりの度合い(文化施設を訪れたことにより、文化に触れることができたか(身近になったか))**
 文化に触れることができた(身近になった) 87.8%
 (目標70%以上)

今後の取り組み

令和4年度以降については、同規模の事業は実施しないこととなっているが、これまで以上に文化施設同士が連携し、魅力的な集客事業を計画できるように、各館相互の特徴を職員間で共有するため現在施設の館長を中心に施設見学研修会を行っている。

また、文化施設の館長及び事務担当者を参集する会議を定期的に開催しているが、集客につながる議論も出ている。具体的には、令和4年度は子どもたちの夏休み自由研究に焦点を当て、文化施設からできることを集約して、チラシを作成し、夏休み前に各学校へ配付するようなことを検討している。



【スタンプシール収集の様子】

【目標・ねらい】

- ① 文化施設来場者の増加
- ② 事業の満足度
- ③ 文化との関わりの度合い

※自己評価【B】

【理由】コロナ禍であり、文化施設の来場者増加にはなかなか結び付かなかったものの、市内さまざまな団体に関わり事業を無事に終わらされた点。アンケート結果から事業の満足度及び文化との関わり度合いが予想以上であった点。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北相木村考古博物館収蔵資料の3Dデータ化とその活用事業
事業主体 (連絡先)	北相木村 長野県南佐久郡北相木村 2744 0267-77-2111 担当 藤森英二
事業区分	(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,099,846円 (うち支援金: 833,000円)

事業内容

- 3Dデータ化作業
 - ・遺物、遺跡等の撮影 ・高性能パソコンによりデータ処理
- データ活用
 - ・3Dプリンタによる複製品の作成
 - ・岩陰遺跡現地のバーチャル体験
 - ・インターネットによる資料の公開
- 地域住民の参画
 - ・博物館による事業の紹介(ホームページ、ケーブルテレビ、公民館報等)
 - ・栃原岩陰遺跡を中心としたデジタル化したい遺物の希望の調査



(活動写真)

【 成果の展示 】

【目標・ねらい】

- ① 考古資料 3D データ化
- ② 成果品のアピール
- ③ 地域住民の参画
- ④ 博物館来館者の増加

事業効果

- ①遺物 12 点、遺跡一箇所を 3D データ化できており、今後も追加する。
- ②博物館での展示 (11 月 2 日以降、38 名見学・休館期間含む) ・ふるさと納税へのお礼として、納税者にレプリカを寄贈 (12 件) ・ブログ等での紹介・WEB (Sketchfab) 上にデータ公開 (11 点、2 月 18 日現在述べ 1193 名の閲覧あり) ・山形大学の授業で活用例あり
- ③村文化祭 (10 月 30 日～11 月 1 日、97 名見学) ・3D 化希望のアンケート応募数 203 票
- ④1 月 31 日までで、468 名。コロナ禍以前と比べ増加はない。

※自己評価【B】

【理由】資料のデータ化やインターネット等での活用は予想以上に成果を残せたが、新型コロナウイルス感染拡大もあり、イベントが開けず、また休館期間もあり博物館来館者数は増加しなかった。

今後の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大により、説明会等の機会を設けることができず、博物館の来館者の増加には繋がらなかった。一方で、インターネットに上げた 3D データの閲覧数は増加しており、今後、北相木村考古博物館の知名度アップや、収蔵遺物の活用につながると期待できる。また、今回は 3D プリンターによるレプリカを、ふるさと納税へのお礼として納税者に寄贈したが、高評価を得ており、今後は返礼品として準備したい。またコロナで利用が難しかった小学生等の利用にも努めたい。さらに、村文化資産の普及活動や研究活動において、有効に活用可能であると考えている。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	歴史民俗資料館特別企画展「軽井沢のルーツを探る！～この土地に住んでいた縄文人とは？～」
事業主体 (連絡先)	軽井沢町 (歴史民俗資料館/電話：0267-42-6334 e-mail：shiryoukan@town.karuizawa.nagano.jp)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	478,624円 (うち支援金：117,000円)

事業内容

- 特別企画展「軽井沢のルーツを探る！～この土地に住んでいた縄文人とは？～」(有料)
令和3年7月17日(土)から11月14日(日)まで
縄文時代の遺跡である茂沢南石堂遺跡から出土した遺物と、
解説パネルやキャプション、懸垂幕を用いて展示を行った。
- 子供向けワークショップ(土器制作)の開催(参加料500円)
8月1日(日)：講師 藤森英二氏(北相木村考古博物館)
- 文化講座の開催(無料)
10月23日(土)：講師 水沢教子氏(長野県立歴史館)
- 現地見学会の開催(参加料400円)
11月6日(土)：講師 山田あづさ(資料館学芸員)



【館内展示】



【10月23日文化講座】

事業効果

- 来館者の増加
目標とした令和元年度の同時期(7月～10月)の入館者数は超えられなかった。
入館者実績 1,563人 対R1比 70%
入館料実績 329,200円 対R1比 89%
- 今までスポットが当たらなかった軽井沢の歴史の一面を紹介
来館者からは「軽井沢に縄文のイメージが無かった」との声が聞かれ、展示についての問合せも数多く受けた。また、文化講座の参加者の中には地元の小学生もいた。広い世代に認知されるきっかけとなったのではないと思う。

今後の取り組み

- 今回展示した土器や石器の一部は常設展示を続け、展示パネルも常設展示に活かしていく。
- 子供から年配者まで、皆が地域の歴史を学べる生涯学習の場として、館の運営を行っていく。

【目標・ねらい】

- 来館者の増加
- 今までスポットが当たらなかった軽井沢の歴史の一面を紹介

※自己評価【B】

【理由】

新型コロナウイルス感染拡大が続く中での開催であったため、目標としていた入館者数に達することは出来なかったが、十分な効果があった。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	龍岡城五稜郭再整備事業
事業主体 (連絡先)	龍岡城五稜郭保存会 (0267-67-2043 原英正)
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	705,200円 (うち支援金: 564,000円)

事業内容

・令和3年10月3日に地元のあいとぴあで72名の参加で五稜郭の学習を行えたことで大きな達成感が持てた。文化財事務所の森泉かよ子さんのお話は、過去と現在と未来を見ることができ、五稜郭への見識を深めることができた。

・絵本の元になった大給恒の字紙芝居を制作した堀口美鈴さんをはじめとする日本赤十字社長野県支部飯田紙芝居班の7名による音楽入りの朗読をお聞きでき、大給恒の世界に引き込まれた。絵本を手にして聞くことが出来た。長野県立大学の学生さんと未来へのコンセプトを考えた。

事業効果

・コロナ禍ではあったが、あいとぴあで2mの間隔をあけて実施し、多くの方々と五稜郭への思いを共有することができた。

・五稜郭の精密な図面に驚いたり、発掘で確かになった堀の様子に龍岡城の魅力を再発見したりすることが出来た。年代を追って五稜郭の変化を見せていただいて、今やるべきことやこれからの方向性がわかってきた。

・大給恒の少年時代からの心情を感情を込めて朗読していただいて、大給恒の真の姿に近づくことができた。

・新しいイベントやしおり、おもてなしスイーツまで考え合うことができた。

今後の取り組み

・保存会の定期的な会合の中で、一年半後の再整備を意識し、五稜郭をより身近なものとして考えていきたい。その時、田口地区への発信を大事にしたい。・五稜郭の再整備事業という大きな目的を達成するために、絵本やしおりをツールにして、より多くの方々に発信し、五稜郭においていただいた方には絵本を朗読をして差し上げたい。

・佐久ケーブルテレビで11月7日のPM7時・11月8日AM10時・PM3時より五稜郭学習会の様子が放映される。それを多くの方に見ていただき、その後データをいただけるので、折に触れて五稜郭や大給恒を話題にしたい。

・県立長野大学のグローバル課の授業にZoomで参加させていただいて、五稜郭や佐久地域の学びを深めていただき、来年の桜祭りや星まつりのイベント・しおり・スイーツもおもてなしにつなげていきたい。高原のパン屋さんにも協力していただいている。



【五稜郭歴史学習会】

【目標・ねらい】

- ①田口地区の方々と共に龍岡城五稜郭の歴史を学び直した上で、赤十字の専門家による絵本の朗読をお聞きしたい。
- ②今後の五稜郭を語り合いたい。

※自己評価 【A】

【理由】

- ①五稜郭の発掘に関わった文化財事務所の方のお話をお聞きして五稜郭の具体的な姿が見えてきた。
- ②県立長野大学の教授や学生さんの参加で未来の五稜郭像を考えることにつながっていった。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久地域信州子どもカフェ推進事業
事業主体 (連絡先)	佐久地域子ども応援プラットフォーム 代表運営委員 090-5530-0825
事業区分	(3) 教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,061,510円 (うち支援金: 690,000円)

事業内容

現在、ひとり親世帯、夫婦共働き世帯、核家族化などの増加により、近隣住民や地域コミュニティとの連携が薄れ、子どもや子育て中の親が孤立しやすい環境にある。

そこで、子育てを応援・支援をする団体の情報発信等のため、以下事業を実施した。



【子どもまつり配信会場の様子】

①オンライン対応事業

団体構成員間の連携や子育て中の保護者等への情報発信のため、ホームページを制作。

②子育て応援冊子(小冊子)作成・配布

団体構成員紹介等の小冊子を作成し、小学校等へ配布することで、子育て支援をする団体構成員等の周知を図った。

③佐久地域子どもまつりの企画と開催

Zoom ウェビナーにより、サヘル・ローズ氏を講師に招いた基調講演や佐久地域の多文化を背景に持つ高校生たちのパネルディスカッション等を実施。

事業効果

- ・団体構成員の担い手やボランティアの確保
個人ボランティアの担い手 R2: 25名 → R3: 28名
- ・信州子どもカフェ推進事業に参画する団体構成員
R2: 15団体 → R3: 18団体
- ・佐久地域子どもまつりの参加者
申込人数: 120名 合計ユーザー: 139名
一時の平均人数: 84名

【目標・ねらい】

- ①子育て中の保護者と支援者との繋がり構築
- ②子育て支援を行う団体間の連携構築
- ③団体構成員の活動の周知

※自己評価【 A 】

今後の取り組み

・作成したホームページを利用し、web ミーティングや勉強会を開催し、団体間の連携を推進していく。また、支援を必要とする方々に必要な支援を届けるため、各団体の最新情報を発信していく。

(例: 子ども食堂のコロナ禍の活動、弁当配布の情報等)

・小冊子やホームページを使い、団体と保護者がつながるだけでなく、企業や教育現場とも繋がる活動を行う。

【理由】

- ・小冊子やホームページの作成により、団体間の連携創出や情報発信を行えた。
- ・子どもまつりは、コロナ禍の中、オンラインのみでの開催だったが、多数の参加があり、地元で「多文化」の問題を問いかげられた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	創ろう！広げよう！佐久のハーモニー パート1(音楽で創る佐久のハーモニー)
事業主体 (連絡先)	創ろう！広げよう！佐久のハーモニー！実行委員会 (佐久市猿久保55 長野県佐久創造館内) 0267-68-2811
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,885,423円 (うち支援金: 1,414,000円)

事業内容

- 1 リトミック:小諸市立美南が丘小学校・佐久市立切原小学校でのリトミック
- 2 クリニック:佐久市立白田中学校・佐久市立浅間中学校・佐久穂中学校でのクリニック
- 3 ワークショップ:小諸市美南が丘小学校・佐久市立切原小学校での楽器(ドラムセット)に触れるワークショップ
- 4 文化施設演奏会:旧大沢小学校(佐久市有形文化財)・中軽井沢図書館での演奏会
- 5 マルシェ演奏会:軽井沢町地域交流施設くっかけテラスでの「くっかけ市場」演奏会



【 旧大沢小学校でのヴァイオリン・合唱のコンサート 】

事業効果

- 1 リトミック:リズムや身体も利用した音を体験し音楽の楽しさを体験できた。特に支援学級の児童方に音楽の楽しさを紹介できました。(参加人数 604人)
- 2 クリニック:自分の受け持ち楽器別の楽器演奏指導を受けた生徒の方々がより高い演奏体験を経験できました。(参加人数 118人)
- 3 ワークショップ:小学校では4・5・6年生がドラムセットをたたき、リズムや音の強弱などの奏法を体験し、また模範演奏を楽しみました。(参加人数 381人)
- 4 文化施設演奏会:①佐久市有形文化財である廃校の「旧大沢小学校」での演奏会は歴史ある木道校舎での音の響きを楽しみ有形文化財の価値を味わいました。②図書館での演奏会は文化施設における文化の多様な広がりを感じられました。
- 5 マルシェ演奏会:中軽井沢駅前及びチャレンジショップの活性化を目指している「くっかけ市場」で開催した演奏会は訪れた方々に楽しまれ、くっかけ市場(マルシェ)の活性化に貢献しました。

【目標・ねらい】

- ①芸術文化に対する理解を深め裾野を広げる
- ②音楽活動を担う人材を育成する
- ③地域住民の理解を得ながら地域の文化力を発展させていく
- ④文化芸術の力を活かした地域づくりに取り組み地域の活性化に寄与する

※自己評価 【 A 】

【理由】

①学生・生徒にはリトミックやクリニック、ワークショップを実施したことにより、音楽の楽しさを体験しより高い音楽活動に触れることができた。②文化施設での演奏会は廃校を含む文化施設での文化事業で文化の広がりを発展できた。マルシェ演奏会では地域の活性化に貢献した。

今後の取り組み

3年間の事業の3年目として令和3年度事業を展開してまいりました。この成果を令和4年度以降、継続して①音楽を担う人材育成のためのクリニック、②音楽を楽しむリトミック、ワークショップ、③日頃演奏会に来る機会の少ない方々への訪問演奏、④商店街の活性化を目指す方々と共同した活動の実施、⑤図書館の活用、美術館や文化財施設など多様な場所での音楽演奏などを実施し、佐久地域での音楽を通じた文化力の発展、住民の協力を得た地域づくりを行ってまいります。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	創ろう！広げよう！佐久のハーモニー パート2(演劇で創る佐久のハーモニー)
事業主体 (連絡先)	創ろう！広げよう！佐久のハーモニー！実行委員会 (佐久市猿久保55 長野県佐久創造館内) 0267-68-2811
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,826,678円 (うち支援金: 1,312,000円)

事業内容

- 文化財を活かした演劇活動の実施：廃校になっている旧大沢小学校で演劇公演を実施しました。
- 人材育成演劇講座開設
 - 小・中・高校生のための演劇講座を開設し、8月に発表会を実施しました。
 - 演劇体験1日塾を実施しました。
 - 演劇祭に参加する演劇塾を開設しました。
 - 「能の楽しみ」公演に参加する小学生向けの能楽講座を実施しました。
- 演劇祭の実施：佐久のハーモニー演劇祭を実施しました。



【「能の楽しみ」公演では観客も参加して体験講座を実施、能の楽しさを実感しました。】

事業効果

- 文化財を活かした演劇公演：一人芝居の演劇を身近な場所・距離で鑑賞でき、感動を通じて演劇の良さを体験できました。
- ①人材育成講座：小・中・高校生の演劇公演は仲間で助け合って演劇公演を行うことが出来、演劇を通して表現すること、皆で協力することで完成していく過程を実感できました。②演劇体験1日塾は、演劇に興味を持つ初心者がプロ俳優の指導の下、演劇の楽しさを味わいました。また、中学校の演劇部の生徒がプロのわかりやすい指導を得て、演劇の広がりを経験しました。演劇塾では、初心者の塾生が短期間で演劇公演に参加し、演劇の自由さを感じることができました。③人材育成能楽講座では、プロの能楽師の指導を受けた小学生が「能の楽しみ」公演に出演し、伝統芸能の素晴らしさを継承されました。
- 演劇祭：地元で結成された新しい劇団が参加するなど、地元に着目した演劇祭になりました。高校4校の演劇部が数年継続して参加しており、能の公演も合わせて8団体が参加するなど、佐久地域の演劇状況の活性化に寄与しました。

【目標・ねらい】

- ①芸術文化に対する理解を深め裾野を広げる
- ②演劇活動を担う人材を育成する
- ③地域住民の理解を得ながら地域の文化力を発展させていく
- ④文化芸術の力を活かした地域づくりに取り組み地域の活性化に寄与する

※自己評価 【 A 】

【理由】

①文化施設での演劇公演は廃校を含む文化施設での文化事業で文化の広がりを発展できました。②演劇を通じた人材育成(演劇・1日塾・演劇塾・能楽)に努めて、文化活動を広めることが出来ました。③演劇祭に参加する方々や鑑賞する方々を通して地域の活性化が図れました。

今後の取り組み

3年間の事業の3年目として令和3年度事業を展開してまいりました。この成果を令和4年度以降、継続して①演劇を担う人材育成のための演劇塾②演劇を楽しむ方々の裾野の拡大、③日頃演劇公演に来る機会の少ない方々が身近な場所で楽しめる演劇活動、④商店街の活性化を目指す方々と共同した活動の実施、⑤図書館の活用、美術館や文化財施設など多様な場所での演劇演奏などを実施し、佐久地域での演劇を通じた文化力の発展、住民の協力を得た地域づくりを行ってまいります。